京都の福祉

シアワセ運ぶ情報誌

575
2019年1月

Contents

京都府社会福祉協議会会長 年頭挨拶
京都府知事 年頭挨拶
ともに考え、ともに一歩を踏み出す
～生活困窮者を見逃さない、当事者を孤立させない地域づくり～
こんなとき、どうします？ Q＆A
夢中！ 熱中！ ふくしびと

もえぎ

あけましておめでとうございます▼AI（人工知能）技術はどこまで進化するのか。国際体操連盟が演技の採点にAIを導入することを決めた。技が超難度化する中、より公平な審判を支援するためで、選手達の期待も大きいと聞く。いずれ審判員もAIに置き替わるのか？▼福祉・介護の分野でもAIの活用が飛躍的に進むであろうが、やはり人と人との繋がりが何より大切と思う。それにAIには近未来を描く映画、例えばエマ・ワトソン主演「ザ・サークル（2017）」やトム・クルーズ主演「マイノリティレポート（2002）」などのように情報の一元管理・操作の恐怖が付きまとう▼府社協が掲げる「だれもが尊厳をもって生きることができる京都」を実現するためにAIで個々人のあらゆるビッグデータ（スマホ検索、買い物、銀行取引、光熱水費の利用等の生活履歴）を分析することで、声にならない「SOS」を迅速に感知又は予知し、その人にピンポイントで最適なサービスを届けることも可能かもしれない▼だが、AIによる〝予防的福祉〟のネットワークが構築できれば、福祉制度の隙間に陥る人はなくなる？それを人々が幸福と感じるなら、府社協もAIに置き換わるのか!! 既にAIは日常生活の一部になっており、正夢となる可能性は如何ほどか▼国立情報学研究所教授の新井紀子氏は、AIが人間の能力を超える技術的特異点『シンギュラリティ』の到来はないが、AIに代替されやすい仕事は多々あると指摘する。私たちはAI以上に進化しなければならないのか。そして、その先には『ホモ・デウス』※の世界が待っているのか!?

（MY）

※歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリの著書。他に『サピエンス全史』などがある。